

1 意見提出の概要

期 間	令和 2 年 1 月 20 日～2 月 19 日	
提出方法	ホームページアンケート	12 人
	紙、メール	8 人
	市立小中学校での提出	128 人
	合計	148 人

(年代内訳)

10 代	129 人	50 代	4 人
20 代	1 人	60 代	2 人
30 代		70 代～	5 人
40 代	3 人	不明	4 人
	合計		148 人

意見募集用のチラシ。
ホームページアンケートも
同様の項目で意見を募集。

(仮称) 小平市第四次長期総合計画「骨子案」に係る意見募集

1 骨子案のうち「基本構想」の「基本的な理念」について、あなたの考えをご記入ください。

2 骨子案のうち「基本構想」の「めざす将来像」について、あなたの考えをご記入ください。
(骨子案のほか「別紙」もご覧ください。)

3 骨子案のうち「基本構想」の「取組の方向性」では、9つの「方針」を掲載しています。
あなたが関心のある「方針」を3つまで選んでください。(□に印(チェック)を記入してください。)

子どもの育ちと自立を支援する 全世代、元気にはつとめよう
まちの誇りを受け継ぎ、発展させる 誰もが尊重され活躍できる社会の実現
様々な絆で支えあう 地球力をいかした地域づくり
安全で、住みやすいまちを形成する 地球資源をいかし、活力と交流を生み出す
水やみどりを保全・創出し、環境にやさしい循環型社会を形成する

選んだ「方針」について、あなたの考え(その方針に係る将来像等)をご記入ください。

4 その他、「骨子案」について、ご意見等があればご記入ください。
※「骨子案」のどの部分に対するご意見か、わかるようにご記入ください。

5 あなたご自身について、教えてください。

居住まい	<input type="checkbox"/> 小平市内に在住	<input type="checkbox"/> 小平市内に在勤	年齢(年代)	<input type="checkbox"/> 10歳未満	<input type="checkbox"/> 40歳代	<input type="checkbox"/> 80歳代
	<input type="checkbox"/> 小平市内に在学	<input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 10歳代	<input type="checkbox"/> 50歳代	<input type="checkbox"/> 90歳代
				<input type="checkbox"/> 20歳代	<input type="checkbox"/> 60歳代	<input type="checkbox"/> 100歳以上
				<input type="checkbox"/> 30歳代	<input type="checkbox"/> 70歳代	

ご協力いただき、ありがとうございました!

2 地域懇談会の概要

日時	場所	参加者数
2月1日(土) 10:00～11:30	東部市民センター 集会室	14人
2月2日(日) 13:00～14:30	小川西町公民館 ホール	7人
2月4日(火) 13:00～14:30 18:30～20:00	中央公民館 ギャラリー	9人
		6人
	合計	36人

傍聴者 1 人

3 大学との意見交換の概要

日時	意見交換相手
1月20日(月) 9:30～10:30	武蔵野美術大学
1月20日(月) 15:00～16:00	津田塾大学
1月27日(月) 14:00～15:00	白梅学園大学
2月6日(木) 10:00～11:00	嘉悦大学

4 企業等との意見交換の概要

日時	意見交換相手
1月31日(金) 15:00～16:00	株式会社良品計画ソーシャルグッド事業部
2月5日(水) 13:30～15:00	光洋電子工業株式会社、株式会社日立国際電気、株式会社ブリヂストン、ルネサスエレクトロニクス株式会社
2月6日(木) 16:00～17:30	LINE 株式会社公共政策室
2月7日(金) 16:15～17:30	国土交通大学校、多摩信用金庫、東京フットボールクラブ株式会社
2月17日(月) 10:00～11:30	東京ガス株式会社多摩支店
2月17日(月) 16:30～17:30	株式会社ドコモ CS 多摩支店
2月18日(火) 17:00～17:15	小平商工会

5 意見の要旨

《一般分》関心のある「方針」(一人3つまで選択)

基本目標Ⅰ (ひとづくり)	子どもの育ちと自立を支援する(子育て支援、学校教育、若者活躍)	9
	全世代、元気にはつらつと過ごす(健康づくり、スポーツ、生涯学習)	2
	まちの誇りを受け継ぎ、発展させる(歴史、文化芸術)	3
基本目標Ⅱ (くらしづくり)	誰もが尊重され活躍できる社会の実現(男女共同参画、障がい者支援、多文化共生)	4
	様々な絆で支えあう(介護、保健福祉、生活支援)	3
	地域力をいかした地域づくり(地域コミュニティ、安全・安心)	3
基本目標Ⅲ (まちづくり)	水やみどりを保全・創出し、環境にやさしい循環型社会を形成する(緑、環境、資源循環)	6
	安全で、住みやすいまちを形成する(市街地整備、道路、交通)	8
	地域資源をいかし、活力と交流を生み出す(商工業、都市農業、観光)	9
合計		47

《一般分》項目別意見の概要(詳細:資料3 P1~P3)

基本的な理念について	めざす将来像について
<ul style="list-style-type: none"> この基本理念で良い。 全てを拾おうとして何も拾えなくなることを懸念。 小平には田舎らしい安心感が残っている。 プチ田舎の「田舎」は、考えは理解するが抵抗感ある。 「わたしたち」が多様であることを常に念頭におく。 安全安心の面で(ゲリラ豪雨等)不安がある。 多少の不安や汚さを許容する寛大さも必要では。 小平は一つの運命共同体、一人も取り残さない。 「自らの生き方を大切にする」という姿勢がまず必要。 今、小平市の大きな変化を迎える兆しを感じている(人口減少、魅力の減少)。 	<ul style="list-style-type: none"> もう少し具体的な部分があった方が目指しやすい。 住環境と経済的発展のいずれを重視するか、大きく分かれる部分。 今ある魅力を壊すことなく、調和のとれたまちづくりを。 自然が豊かで、のんびりしていて、心が落ち着く。 「プチ田舎」は良い点。目指すというより維持すべきもの。 東京のプロバンスをめざして、カンパーニュ東京・小平。 「働けるまち」「地域資源」は目指すキーワード。 全ての世代が共に尊重され活躍できるまちに。 子ども、若者の未来をつくる活力とつながりのまち。 魅力づくり、働く女性、外国人、地域組織、若い世代。
方針について	その他(全般)
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子高齢化を見据えた対策を。 何か突出した取組により、住みたくなるまちに。 持続可能なまちづくりを(少子化対策、安全対策)。 転出しても戻りたくなる、他市に誇れる魅力が必要。 住環境や教育環境の充実で、住み続けたくなる市に。 地域の祭りや行事で、まとまりや絆を醸成。 多文化共生は重要。外国人も市政参加の仕組みを。 子どもを大切に育み、地域資源に触れる取組を。 新しい企業を誘致。 障がいのある人にもやさしい、住みやすいまちに。 「循環型社会」実現が「地域資源」「地域力」にも波及。 「様々な絆で支えあう」は、子どもを含めた全ての世代に関わる。「地域づくり」とも一体的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学園都市としてまちを活性化。 行財政運営の「財政基盤」について、情報が必要。 グリーンロードをいかし、文化と健康のネットワークを。 中高生にももっと目を向け、10代が元気なまちに。 若者が起業したいと思うような環境、まちになってほしい。 道路、公園をはじめとする都市基盤はますます重要。 どのような課題解決のための政策なのか明らかにする。 市民力、地域資源、誇りと愛着のこだいら。 豊富な経験を持つ高齢者の高い経験値も地域資源。 市民の出番増加が活力のある「地域」づくりにつながる。 財政基盤も見据え、計画が絵に描いた餅にならないよう、縦割りでなく横断的に実行プランを作成してほしい。

《小中学校分》関心のある「方針」(一人3つまで選択)

基本目標Ⅰ (ひとづくり)	子どもの育ちと自立を支援する(子育て支援、学校教育、若者活躍)	42
	全世代、元気にはつらつと過ごす(健康づくり、スポーツ、生涯学習)	31
	まちの誇りを受け継ぎ、発展させる(歴史、文化芸術)	29
基本目標Ⅱ (くらしづくり)	誰もが尊重され活躍できる社会の実現(男女共同参画、障がい者支援、多文化共生)	38
	様々な絆で支えあう(介護、保健福祉、生活支援)	32
	地域力をいかした地域づくり(地域コミュニティ、安全・安心)	20
基本目標Ⅲ (まちづくり)	水やみどりを保全・創出し、環境にやさしい循環型社会を形成する(緑、環境、資源循環)	53
	安全で、住みやすいまちを形成する(市街地整備、道路、交通)	75
	地域資源をいかし、活力と交流を生み出す(商工業、都市農業、観光)	22
合計		342

《小中学校分》項目別意見の概要(詳細:資料3 P4~P11)

基本的な理念について	めざす将来像について
<ul style="list-style-type: none"> 骨子案の基本理念で良いと思った。 (個別の文言を取り上げての賛意も多数あり) 自然豊かなまちになってほしい。 買い物便利なまち、ショッピングモール等。 環境や文化を大切に守る。 バリアフリーで、差別のないまち。 安全安心、不審者のいない、見守りのあるまち。 ふるさと小平に共感した。 認めあいは、平等や平和にもつながる。 少子高齢化が進む中、支えあいは大切。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑があふれ環境にやさしい、支えあうまち。 豊かな環境、文化を守るまち。 住みやすく、交流できるまち。 バリアフリーで障がいのある人も暮らしやすいまち。 みんなの声と絆で成長していくまち。 誇りを忘れず平和なまち。 光り輝き幸福へGO! 空き家等をなくし、土地を有効活用(公園等)。 スーパー等を増やしてまちを豊かに。 若者を中心とした活気あるまち。 発展や進化だけでなく、みんなで小平を守っていく。 ふるさとの伝統と誇りを胸に発展するまち。
方針について	その他(全般)
<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策のためにも緑を残し住みやすくする。 観光客が来るような楽しいまちに。 中学から一人一台タブレットにして教科書を集約。 もっと遊びや運動ができる場所がほしい。 歩道は広くし、夜暗い道は街灯で明るくしてほしい。 小平市の特産品をもっとPR。 差別などがなく、誰もが尊重され活躍できる社会に。 今のままでは自然がなくなってしまう。畑なども守る。 おじいちゃん、おばあちゃんと遊ぶ時間をつくる。 今の小平を残して受け継ぎ発展すると良い。 子どもだけでなく、子どものいる家庭も支援すべき。 まちに来た人はまず駅を見る。駅をきれいに。 市民同士の交流がある、助けあえるまちに。 	<ul style="list-style-type: none"> こども110番の家が増えて、安全なまちになってほしい。 信号がない歩道に信号をつけてほしい。 みんなが幸せな未来をつくるために議会をして、良い未来をつくってほしい。 安全で住みやすいまちの形成を進め、生活しやすいまちにしてほしい。 自然、太陽、空が見えるまちづくり。 玉川上水など、歴史を大切にする。 絆で支えあうために、行事を増やしてほしい。 朝、ラジオ体操をする(ひとづくり)。 小学生も政治に参加できるのは驚きでありがたい。 私たちが考えた意見が実現したらうれしい。 市の取組を、小中学生にもわかるように伝えてほしい。

《地域懇談会》グループ意見交換要旨

小平市は将来どのようにしてほしいか	骨子案をみて思うこと
<ul style="list-style-type: none"> ・多世代で話し合える小平市にしたい（多世代交流のお祭り、高校生が中心となるイベントの企画等）。 ・（自分の出身地と比べて）商店街が生きていることをいかして、例えば商店街と高校生がタイアップするなど、多世代を巻き込む小平市。 ・日本、東京都といった大きな動きの中で小平を考えていかなければいけない。 ・将来像を考えるとときには、西武線や道路の整備等の動きを視野に入れることも大事。 ・インフラの老朽化に伴う跡地利用や建物の再利用。 ・障がい者をはじめとした差別等にどう立ち向かっていくか、どう改めていくのか。 ・小平市の良いところとして、都心に比べて物価が安い、道路が広い（自転車でも比較的通行しやすい）、畑が多い（新鮮なものを買える）など。 ・小平市は学園都市で、若い人達もいるので、様々な交流ができると良い。 ・居場所が市内に 50 か所程度あり、世代間交流、コミュニケーションの場として良い。 ・高齢者の増加に伴い、買い物の利便性の向上。 ・子ども、孫世代まで、緑が多く住みやすいまちにしていきたい。 ・障がい者施設もあり、NPO もかなり取組をされている。優しいまちづくりをさらに進めていく方向に。 ・環境の整備をしつつ、人と知識と、教育機関等を呼び込んでいく（そのために交通アクセスの向上）。 ・シンボリックなものの誘致。 ・子どもが中心。 ・グループメンバー全員が小平を好き。こうした思いをどうするかということを考えないといけない。 ・住みやすいまちであることと、今ある残すべきものは残していく。 ・多文化共生、子どもが主人公である小平をつくろう。 ・外国人も含め多種多様な人達が一緒に住めるまち。 ・子どもをケアする社会は地域社会を強くする。 ・自治会の組織率は何とかならないか。地域を活性化すると、若い人達にとっても楽しいところになる。 ・多摩の市部として、区内との対比で、住みやすい、落ち着いた雰囲気を残しつつ、都心にもアクセスしやすい、利便性を保ったままでいてほしい。 ・格差（貧富の差）の是正。 ・企業誘致によって、若い活力があふれるまちになるのではないか。 ・今のままでは危機感がないのではないか。 ・もっと PR ができる余地はある。 ・今ある自然や緑を大切にしていけることが大事。懐かしい風景を大切にしていける。 ・安全安心の対策について、大切に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「男女共同参画」を「老若男女共同参画」とする。 ・「つながり」「みんな」「地域資源」を大事にする。 ・「進化するまち小平」は、建物等ではなく人がどんどん進化してコミュニティを広げていくというところにフォーカスしたい。 ・人口減少を踏まえ、人を増やすというよりも、減らさないことが大事。小平市で生まれ育った人、現在高校や大学に通学している人等に小平市に住んでもらう。 ・人口減少、農地減少、空き家対策等、色々な問題がある。 ・人口減少には疑問もあるが、人口減少を見据え、ふるさと納税で小平市も特産品を作って財源を確保していくことも考える必要がある。 ・障がい者の方が過ごしやすいまちづくりを行政がもっと対外的にアピールし、行政以外の力添えをもらいながら達成していくことができたら良い。 ・外国人（学生、技能実習生、研究者、介護関係）の増加が見込まれる中、多文化共生、外国人も住みやすく、お互いにコミュニケーションをとれるまちづくり。 ・緑が少なくなっていくことは残念。 ・小平市の良いところは、緑が多いということ。 ・人口減少を見据え、子育て支援を充実させていく。 ・12 年後ということで、かなりイメージはしやすい。 ・目標を分かりやすく市民に説明し、市民と行政を結ぶ接点の構築をさらに進める。 ・子どもからお年寄りに対して、優しい気持ちで接することをさらに盛り込む。 ・海外留学生や、実習生が地域に溶け込めるような仕組みづくり（プログラム等）。 ・理念なのでしかたないが、少し抽象的。この下の目標には、例えば待機児童ゼロとか、スポーツチームを誘致するとか、具体的な数値目標が必要では。 ・企業やショッピングモール、人の誘致、まちのにぎわい、イベント、観光地としての整備、外から呼び込むしかけ。 ・公共施設については周辺自治体と連携して、広域的な統合も必要。 ・障がい者にも高齢者にも優しいまちをアピールできれば、若い世代も入ってくるのでは。 ・小平市内の大学を卒業した人が、小平市内の企業に就職するというルート。 ・骨子案についてはこれで良いと思う。これをいかに、どうやって実行するか。 ・隣近所同士のつながりがもっと強くなれば、もっとまちが明るくなるのでは。子どもにとっても、良い影響を与える。人のつながりが一つ、キーワードではないか。 ・税金の使い方について公平にチェックする機能。 ・健康寿命を伸ばせば、医療費も削減できる。 ・地域でもっと関わりがもてると安心して暮らせる。 ・小平市の固有の魅力をどう磨いていき、どう PR すれば良いのか。

《大学》意見交換要旨

大学にとって魅力的なまちとは（外からみた小平市）	公共的な領域に関する見解
<ul style="list-style-type: none"> ・地元から大学に通ってもらふ事。 ・小平で学んでも、就職するとなると別。 ・学生にとっては交通の便が良いと通しやすい。 ・駅からの通学路の安全性(夜の暗さ等)。 ・地元事業所への就職を支援するシステム。 ・ビジネスチャンスがあること。 ・新しいものと古いものが混ざったまち（古いものは小さい組織でもいかせられる）。 ・若い人に使い勝手の良い施設（大学構内以外）。 ・学生は活気よりも生活の便利さを求めている。 ・子育て世代を見越して、より若い層への支援を。 ・明確に小平市というイメージが強化されると良い。 ・市内の企業と一緒に何かできると良い（学生の新しいチャレンジをいかす）。 ・灯りまつりなど、小平市は若い人が関われる土壌がある（実際、若い人が集まっているのはすごいこと）。 ・スポーツイベントなどにも若い人が関わりやすい。 ・失敗を見守りながらも、新しいチャレンジを応援する風土。 ・学生にとって体験できる場（コミュニケーションづくり）。 ・留学生との国際交流が進むこと。 ・地域との関わりの中で学生が成長することが、今の教育の姿。 ・小学校から大学まで、教育という1本の柱で連携するという方針を出すことが大事。 ・進路の考え方も多様化している。能動的に探求したり地域と関わることでできると良い。 ・障がいを持つ方や外国人と共生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生、教職員、組織として地域と顔のつながりを持つ（継続性）。 ・つながりを軸に、学習会や講演会、講座等の連携が充実する（市民の力をつけるための協力、人生100年時代において、シニア層の力をいかす）。 ・何かあったら頼んだり、頼まれたりの関係づくり（漠然としていても、「こんなことできるかな」から連携がはじまる）。 ・保育、教育、福祉など、人に関わることで連携ができる。 ・居場所づくり（歩いて200m以内）が重要。 ・オープンキャンパスで地域との関係を築いている。 ・学園祭には地元住民に多く来てもらえるようになった（地域に根付いてきた）。 ・学内での少年サッカー大会を開催している。70～80人参加があり、盛り上がっている。 ・コミュニティスクール構想が大事（地域の子どもたちは地域で育てていく）。 ・地域みんなで良い教育を子どもたちのために。 ・小学、中学、高校、大学を通して、地域や企業と関わりながら学ぶ。 ・お祭りやイベントは若い力が集まりやすい。 ・公共的な取組が、学生の学びや成長につながることで大事（切り取った部分の連携だけではなく、プロセス全体で連携できると、学生の学びが大きくなる）。 ・学内の美術館を開放している（あまり知られていない）。 ・SDGsなどの切り口で地域課題を見つけ、模索していく。 ・防災は一つのキーワード。 ・多文化の次元が変わりつつある中、連携していけることはある。

《企業等》意見交換要旨

企業等にとって魅力的なまちとは（外からみた小平市）	公共的な領域に関する見解
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが発達しているまち。 ・地域の資源を活用して、市民の楽しみや役に立つことが増えること。 ・商いを通じて、地域の役に立てること。 ・市民が幸せなまちは、ビジネス上も魅力あるまち（つながりの近さ、距離感の近さがポイント）。 ・ゼロから何かつくるといふより、あるものをどうかするか、が重要では。 ・テレワークしやすいまちは、社員を働かせやすいまちとして魅力的ともいえる。 ・これからは「共創」のようなことが重要性を増すと考える。行政、事業者、学校等が共創していけるコミュニケーションが発達しているまちが、魅力的なまちでは。 ・再開発事業等により、人の流れが出来ると良い（FC 東京グラウンドからガスミュージアムなど）。 ・緑の豊かさや自然環境は整っている。小平市に足りないものは商業地域の活性化。 ・教育、文化、買い物、医療のバランスがよい「生活都市」。 ・CSR の取組に市が共感してくれ、行政と一緒に考えてまちを良くしていけるような関係性と継続性。 ・他地域にある工場や事業所は、地元のお祭りに一丸となって出展して地域との共生を図っていた（市のイベントに参加することでコミュニケーションが図れる）。 ・以前は、会社の近く（小平市内）に住みたいという従業員が多かったが、今はそうでもない（会社の近くに住みたいと思われるような、良いイメージを持ってもらえたらと思っている）。 ・市内の大学とも、行事などから入ってつながりができて採用につながると良い。 ・今の若い人は安全安心に敏感。見守るような仕組みを強く出すことで、大型商業施設等が無くても人はとどまるのでは。 ・地盤が固く、川が無く、水害が無い。都心に近いことなど。 ・FC 東京がサッカーだけではなく、まちと共にあるということが、小平市の魅力になると良い。 ・人口も事業所もほどよくある。地場産業の力強さがもう少しあれば、商店街に元気が出ると良い。 ・中小企業が元気なまち。PPP や PFI などには、地元の中小企業も参画できると良い。地域の課題に地域の事業者が当事者意識を持って、企業市民としてシビックプライドが形成される。 ・市内の駅で降りたくなるような場所、物を、民間企業と連携して創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題解決を大きなテーマとして取り組んでいる。 ・脱炭素に取り組んでいる。社としてのメリットというよりは、企業市民としての責務、当然やるべきものとして捉えている。 ・今の学生は、学校で SDGs を学んで育てている。将来世代のために取り組んでいるということメッセージとして伝えるツールとして、SDGs は活用できる。 ・大学が多いのが小平市の特徴。学生や若者を軸に、もっと地域を開いていくことができるのではないかと。 ・両者が同じ熱量を持っていることが大切。 ・5G（大容量高速通信）により、高画質映像が時差なく得られることで、様々なサービス拡張が期待される。 ・連携に際しては、横串を刺した形で、横断的に取り組めると良い。 ・商店会は地域力の見本となれる。 ・地域のお店を中心にコミュニティの「場」づくりを図る。 ・スポーツ施設を拠点とした多様性社会。 ・会社の技術を投入して、地域が明るく楽しい生活を送ることが出来るよう目指している（ダイバーシティ&インクルージョン）。 ・以前と比べて、市と企業の係わりが少し希薄になったように感じる。 ・社会貢献のイベントとして、ゴミ拾いやマラソン大会のボランティアをしている。 ・わが社がここ（小平市）にあってよかったと言われることをする。地域の中で役割を果たしていく。 ・骨子案に示されている取組の目標とかなり重なる部分がある。方向性としては、かなり近い。 ・企業なので利益を追求するが、公共的な取組が企業のブランド価値を高めると考えている。ウィンウィンの関係性ができれば。 ・近隣小学校の見学を受け入れた際、「将来この会社に入りたい」というお手紙をもらった。 ・CSR や公共参画については、アピールするものが無いし、アピールするのであればブランドイメージが上がるように発揮できる場があれば良い。 ・サッカー以外にも教育や福祉など様々な社会課題解決に取り組んでいる。そういったことの発信を頑張りたい。アプローチに対して、市民の皆さんからも反応があると良い。 ・1 サッカークラブというより、サッカーそのもので地域を元気にしていくことは変わらないテーマ。 ・1 対 1 の関係ではなく、三角形の関係性が出来ると、活動の幅が広がり、認知度も上がる。 ・縁があって小平市に立地している。全国から研修生が来るので、利用できる部分は利用してもらいたいと考えている。